

神戸アイセンター - Kobe Eye Center

iPS細胞を活用した世界初の「眼」のワンストップセンター



神戸アイセンターは災害の経験をもとに1998年から神戸市が着手した「神戸医療産業都市」にiPS細胞を用いた再生医療の研究施設、眼科医療施設、ロービジョンケア・生活支援までをトータルに対応する世界初の「眼」のワンストップセンターとして計画された。

In the Kobe eye center, a research facility of the regenerative medicine using iPS cells, ophthalmology medical facilities, low vision care, life support were planned as a one stop center of the world's first "eyes" which coped by total in "the Kobe medical industry city" where Kobe-shi started based on the experience of the disaster from 1998.

目に障がいのある人々に気づきを与える空間

「ビジョンパーク」は神戸アイセンターのエントランス空間にあり、視力低下による困難を抱える人々が気づきや挑戦を促すことを目的とした支援空間である。

「病院に、遊びに行こう！」をキャッチフレーズに、公園のように様々な人が行き交う中で、誰もが安全に楽しむための段差が設けられている。パーク内には手すりや点字ブロックを設けず、代わりに当事者自らが空間を楽しむ挑戦できるデザインが展開されている。

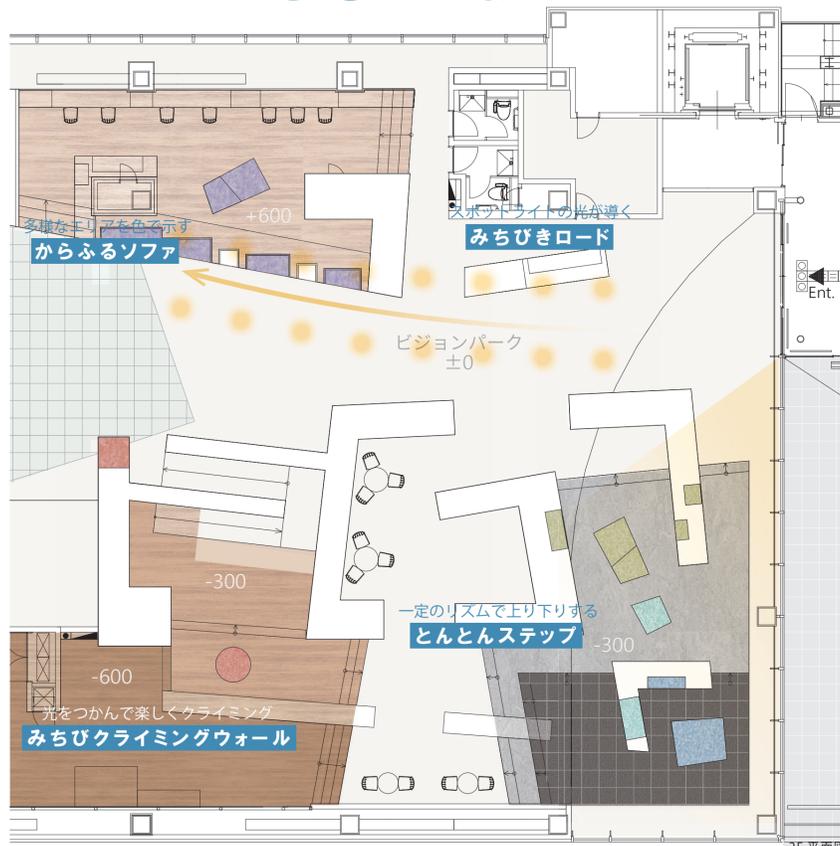


空間の特徴に合わせた色の家具を配置し、利用者にエリアの移り変わりを色で伝える

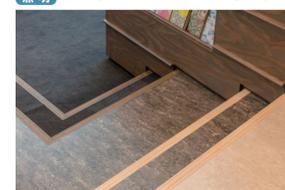


リハビリテーションのひとつとして光で導くクライミングウォールを設置

Vision Park



明るさの違いや、スポットライトの配置によって弱視の方も、晴眼者の方も使いやすいよう光で導くサイン計画



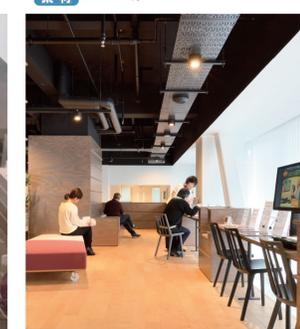
足の裏でエリアの違いを感じられる素材の切替



パーク内の家具のリブを触ることのできる素材



自然光があふれる吹抜けのホールエリア

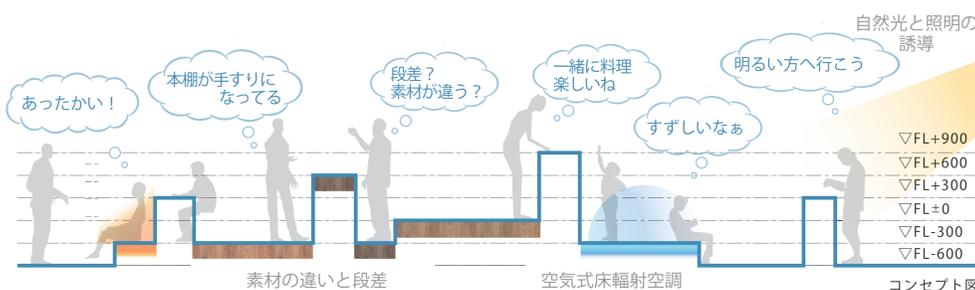


やさしい太陽の光が入り込む情報スペース

視覚に頼らず空間を認識できる新しいデザイン

異なる用途の空間に対して、「色彩」「素材」「自然光」「照明」など、視覚・触覚のコントラストを明確に作り出し、空間を認識できるインテグレイテッドデザインを実現した。

このようなバリアフリーの既成概念を超えたデザインは、利用者主体の社会を作り出す今後の医療施設の空間デザインにおいて、大きな影響を与える可能性を持つ施設となり得るだろう。



多様な光や色による空間デザインと環境デザインの融合

コントラストを重視した内装デザイン

3階病院外来待合について晴眼者、視覚障がい者、弱視の方、様々な方が訪れる施設として、「照明」(道しるべとなる照明)「色彩」(明度差、色のコントラスト)「素材」(リノリウム、カーペットなど素材の張り分け)など、視覚、触覚のコントラストを明確に作り出し、空間を認識できるデザインを実現している。



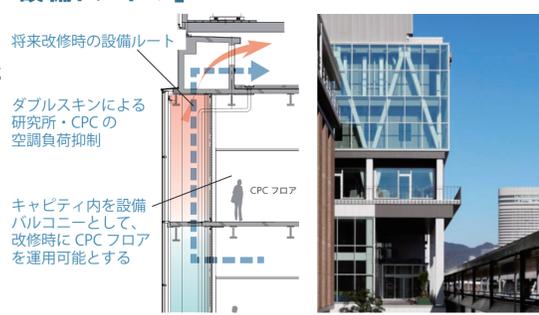
自然光 + αの光

ガラスの開放的な外観を利用し自然光を最大限に取り入れ、必要な量だけを人工照明で補う計画とした。カーペットやタイルなど素材の違いが内部空間にも視覚・触覚のコントラストを生み、空間を認識できるデザインを実現している。



熱を遮り空間を守る「設備トンネル」

安定した温湿度環境を確保するために必要な5階の研究所、6階のCPCに対してダブルスキン部を設備スペースとすることで、外観のガラスに覆われたイメージと更新性、空調負荷抑制といった内部の機能も考慮した計画としている。



構造体のショールーム

夜は鉄骨の構造体をライトアップによってガラス越しに浮かび上がらせ、地域のシンボルとしてデザインしている。



屋上緑化

... 屋上面の熱負荷の抑制

個別テラ空調

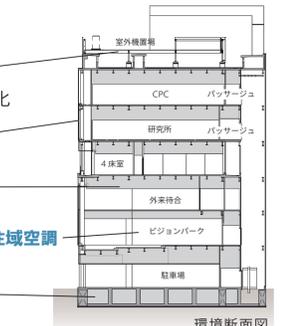
... テナント別に熱源を個別化

ダブルスキンによる負荷抑制

... 設備スペースとの兼用

自然光の取り入れ

... 不足分は照明で補う



環境断面図

環境・設備デザインの評価

評価項目	特に優れた点	評価項目に対する建築的対応の意図	自己評価		
			普通	優れて	卓越
01 審美性	☆	従来のデザインと比較し、優れている部分、卓越している部分に際して具体的に記述	○	○	2
02 調和性	☆	建物の外観と内装の調和性を確保し、空間の統一性を高めることにより、利用者に安心感を与えること	○	○	2
03 独創性	☆	従来の建築デザインを踏襲せず、独自のアイデアを注入し、新しい価値を生み出すこと	○	○	2
04 象徴性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
05 完成度	☆	計画されたデザインを忠実に実現し、意図通りの空間を実現すること	○	○	2
06 機能性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
07 効率性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
08 利便性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
09 安全性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
10 先進性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
11 環境負荷	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
12 資源消費	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
13 地域連携性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
14 コミュニカル性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
15 先進性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
16 ニュートラルコスト	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	1
17 ランニングコスト	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
18 維持管理	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
19 耐久性	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	2
20 LCC	☆	建物の外観や内装のデザインが、地域のシンボルやランドマークとして機能すること	○	○	1

建築概要
 建築主 神戸市振興サービス株式会社
 設計監理 株式会社 日本設計
 施工者 電気 西部電機建設株式会社 機械 ダイダイン株式会社
 所在地 神戸市中央区港島南町2丁目1番地8
 構造 鉄骨造 階数 地上7階地
 敷地面積 2,000㎡ 建築面積 1,573.16㎡ 用途 病院・研究所
 工期 平成28年8月から平成29年11月